

祁山悲林の風更け
陣雲暗し五丈原
零露の文は繁に
草枯れ馬は肥れども
蜀軍の旗光無く
鼓角の音も今静か
丞相疾篤かりき

夢寐も忘れぬ君玉の
最後の御言り
心を焦がし身を尽す
暴風の勤敵軍か
今落葉の雨の音
大樹をたひ倒れしは
漢室の運はたいふ
丞相疾あつかりき

四海の波瀾収めぬ
民は苦み天は泣き
いつか見せん太平の
心のけき春の夢
群雄争ひあつて
中原鹿を争ふも
誰か王者の治を學ぶ
丞相疾篤かりき

吹翠



祁山悲秋の風更け
陣雲暗く五丈原
零露の文は繁く
草枯れ馬は肥ゆれども
蜀軍の旗光無く
鼓角の音も今静か
丞相疾篤かりき。

夢寐ふ忘れぬ君王の
最後の所言りこそ
心を焦がし身を尽す
暴露の勤歳年か
今落葉の雨の音
大樹をたゞ倒れ去るは
漢室の運はたいふよ。
丞相疾あつかりき。

四海の波瀾収まりぬ
民は苦み天は泣き
いつか見おん太平の
心のけき、春の夢
群雄立ちて悉く
中原鹿を争ふも
誰か王者の治を學ぶ。
丞相疾篤かりき。

晩翠



土井晚翠詩稿
星落秋風五丈原一節

土井晚翠筆星落秋風五丈原新片



本館文庫
文庫 14
B 81

此著續明治文學史上卷所収

本間久雄識

